

あの劇の中の方々のプロメトイスの言葉の中には、今も昔も一寸も変らぬ人間の生き方や考へ方、今も昔も変らぬ真理があります。毎日すこしづつ休息のために読みませう。  
今日はこれで終りにします。

さようなら。

### 幸子から謙一あて（一九四四年一月一九〜二〇日の記、二一日の消印）

十一月十九日（日）晴十八度

朝霧深く晴れ相にも見えなかつたのに、十時頃から珍らしい位明るい暖い陽がさして来ました。昨夜入浴のあと、長く起きてゐたため、風邪らしい。すこし頭痛がします。

今日になつてようやく、白麻の夏服のクリーニングが出来て来ました。此の分ならあなたのはんでん用の洗張は何時になるか。クリーニング屋も電気と炭の不足で、アイロンはかけぬ事にしたと云つて来ました。

午前中は風邪と称してマナサス上をよみました。奴隷廃止運動が出て来るけれど、北部のその運動の事は南部のプランターの描写よりも劣つて、何だか霧の中を通して見るような感じがします。前二度よんでみた時と、又すこし異つた感じ（マヤ）てよめます。アランと云ふ主人公は適切で、表現もうまいのですが、どうも其の外のところは、充分たしかな場所をつかみあげて来てゐない感じがします。

森井さん―此のごろ思い出すと、森井さんはあふ前の方がみ力があつた。逢つてからは、かへつて無関心になつてしまつた感があります。要するに森井さんは、私にとつては猫に小判の類で、あまりみ力を感じぬ人です。友達になれたらよいと思つてゐるが、今は積極的に手紙を書く程の気持を感じませんわ。森井さんより臼田嬢の方がずっと私にはみ力があります。臼田さんの方は生きてゐる感じがしますからね。と云つたとて森井さんの悪口云つてると誤解しないよう、唯感想を述べた丈です。現在の森井さんは冬眠状態にはいつてゐるらしいでせう。臼田さんは俗な髪をしてゐると悪口云つたけれど、此の頃思ひ出すと、かへつてそれがあのひとの魅力の一ツになつてゐます。

今日は第六節のノオトを始めました。このへんはあまりこれと云ふ感想は出て来ません（一―三まで）。明日は四―からずつと出来る丈つづけます。どうしても今月中には全部のノオトをとる事にきめてゐますが、自分の怠け心から進捗しなかつたりする事のないようと思つてゐます。午前中は駄目ですから、午後の一―三時までと夜の時間です。此の

時間にうつかり手紙を書き出すと、ヨ定は崩れます。

今日はどうしたのか、手紙を書く内容があまりありませんから、ここで止めて、一日手紙は休みに致しませう。毎日  
く長い手紙を書くのは、時には書く事がなくなつて困る事も起ります。

十一月廿日晴二〇度

No.20 落手。結婚問答は毎度面白く読んでゐます。本当に誰しも一度丈通過せねばならぬ問題ですのに、割にかんたんに考へ勝ちですね。どうかすると洋服の布地や仕立の方に、一さう云ふ問題の方には案外エネルギーを消費して考へるのに、人生の重大事にはかんたんにまはりを見まはして、ありふれた型でもつて満足するのはどう云ふものでせう。一時的なもので自分が使ふものには、本当に念をいれたり、又はあれこれ人の批評を気にするくせに、クリーニングや仕方をな<sup>①</sup>はしは実にめんどうで、自分一人ですませる事の出来ぬ結婚問題の方を軽くまにあはせるのは、どう云ふ錯覚でせうね。

グローヴのあなたの原稿ののる筈<sup>②</sup>のものは、まだ出来ませんか。原稿かへして貰つたら見せて下さい。英語のでは又々長くかかつてよめないと困ります。

今日はどうしたのか甘度まで温度が登り、二階の部屋は頭が痛む位のあたたかさです。

ノオトは今日は六節の四、五、六まで分がヨ定です。四のプーアホワイトの発生の項をよんでみると、イアリングを思ひ出します。あの男の子のお父さんはプーア・ホワイトだったんだなアと思ひました。フロリダの島（陸上にあるのだけれど）と云はれる不毛のチビ松しか生へてゐない砂地の奥地へ行つて、妻と一人の男子とカツ／＼に暮し、半分は鹿をとつたりのリヨウ師をして暮してゐるのです。あれには年代が出てゐたかどうか覚えてゐなかつたけど、ミシシッピイの船乗りが出て来るんだから―あまり近年の話ぢやないと思ひます。

それから風と共に去りぬのオハラ家のプランテーションの外に、エミイ・スラッターリング（？）と云ふ娘のゐるプーア・ホワイトの一家族がゐましたね。あれも無知と貧窮との中にある、オハラ家のくろん坊たちまで、あの人の事をいろいろわる口云つてゐるところがありました。「何とかねずみを常食してゐるんだ」とか、「病気になるのは不潔のせいだ」とか、「父なし子をうんだ」とか。

四では二三九頁、終から十行目から最後まで大変おもしろくよみました。ここには考へなくてはならぬ問題があると思

つて。人が無知と日常の生活に追はれるでセイ一杯である時は、本来的な敵へ向けるべきものを、さつとかはされても一寸も気がつかない。プーア・ホワイトがプランターに向けるべき批判も憎悪も、憎悪として感じ乍ら、其の不まん（不）と憎悪を個々の黒人奴隷に向けること、ここをよんだ時は美に今の置かれてゐる社会を思はずにはゐられませんでした。小さい例でも大の男がパーマネントウエーヴなどを矢たらむしように排けきしたり、市井の一寸した事などに夢中で喧嘩（喧）越になるところなど、圧迫されて低められてゐる国民生活のその不まん（不）と憎悪を、つまらぬところへ注ぎ出して、いくらかでもはらした気になるのかも知れないし、一それから朝鮮の人々に対する態度をも、各最後に残された自尊心をせめて自ら納得しようとの心持から、奴隷制度を支持せんとする心の動きは、あらゆる所に形は変れど残つてゐます。女同志の世界でも会社の中でも。さうしてプーア・ホワイトが一人、自分の向けるべき牙の対象を知る時を恐れるプランターの心理と、それに対する政策を身近に感じ得られます。

今日は料理番で手紙も途中何回区切つたかわかりません。あまりしばしば／＼チヨン切られると、何を書き度かつたか忘れてしまひます。今よう／＼用事がすみました。客はまだゐますが、お母さんもふうちゃんも帰つて来たので、私は二階にゐてもよささうです。時間はもう九時、全くガツカリングですわ。

これからノオト五、六と残つてゐますので、今日はこれ一枚で手紙は終らねばなりません。独立戦争は大分苦しい様です。レッキイは独立戦争の参考書ですか。独立戦争については、あなたの今までのものでは、まだどこで足りないのでせう。アメリカ史でも今度のも、独立戦争の意義も其の結果も、アダムズやファランドなんかより、よつ程掴んでゐるように思はれますけれど。

では今夜はこれでさようなら。

### 謙一から幸子あて（一九四四年一月二〇日の記）

十一月二〇日（月）晴

午前中、郵便箱をのぞいたが失望。

今朝から朝食後、オディッシュウスを少しづつ音読します。聖書も読みます。あなたがゐれば読みあへるのですが。今度僕達が一緒に住む時も、イリアスカオディッシュイか、それとも外の詩かを音読したいものです。

竹中、白田両君へ約束した歴史のレクチュアは当分延期です。僕も少し勉強せねばならないし、それに二人とも目下人

生の重大事をひかえてゐるので、それに関する話の方が切実だからです。竹中君は両親とも血圧高く彼の結婚をすすめるし、周囲の人もやいの／＼と云ひ、足立君までよつてたかるので、どうやら事のなり行きへ身をまかせざるつもりらしい。しきりと外のこと僕に僕の期待にそふつもりだと弁解口調です。彼も何となく結婚したいのでせう。さう云ふ年ですからね。

「駄目だなあ、君は。君のことぢやないか、しつかりしろよ。君は本当の君がまだ掘り出されてゐないのだ。幕をかぶつてゐるんだ。皮をかぶつてゐるんだ。そいつをはがさないと駄目なんだ。そりやその皮をかぶつたままなら、見合結婚だつて何だつて出来るし、そのままやつて行けるだらう。そのかはり人生素通りだ。そんな人生なら生きても生きなくとも同じことだ。自分で皮をはがさなきや。大体君は何でもさうだよ。本を読んでも音楽をきいても、何をしても浅薄で上つつらだけで、サロンのだ。君に何を批評させても、面白いと云ふだけだ。ちよつといいねとか、すてきだとか。要するに芸術でも何でも、自分の感覚を快くさせてくれる限りのいいのであり、それ以上を求めない。芸術の肌ざわりのいい形式だけで満足して、一かど芸術を鑑賞してゐるつもりだ。そんな鑑賞主義が芸術にとつてどれだけ有害だか。芸術を味解すると称する人間の大部分がそんな鑑賞主義だが、本当の芸術の味解は芸術の内容の批判、その芸術を創作した芸術家の魂、生活欲求、心情の奥までの透入洞察、その歴史的社会的結果の洞見にまで進まねばならない。芸術を生活の中でとらへ、生活の血肉へ吸収し、従つて芸術の真と似而非とを峻別する、かくてこそ芸術も進歩し、人間生活も進歩する。君のやうなディレッタント的なサロンの鑑賞者は、芸術を肌ざわりのいいだけの、或ひは新奇な、またはこけおどしな、気どりますました形式主義に墮落させるばかりだ。ディレッタントは皮かぶりだ。自分と云ふものがなく、借り着の皮だけで何もかも卒業し所有するんだ。ディレッタントも昔のそれは偉大だった。ルネサンスの全人達にせよ、フランス革命期のアンシクロペディストにせよ、ヘーゲル及びマル・エンにせよ、いづれも一切の世界現実について統一的理論を導き出し、新しい変革的な世界観を構築した。彼等にとつて世界解釈は彼等の歴史的实践の指針だった。それに比べて十九世紀後半以後のディレッタントは、歴史的实践の放棄、知的享楽主義、美食主義にすぎない。現在のディレッタントにとつては何もかも皮膚の問題だ。恋愛でさへ皮膚の問題だ。結婚もまた皮膚の問題だ。皮膚の問題だからこそ、その失敗はたかく擦過傷にすぎない。君なんかに読まれると、バルザックでもシエクスピアでも皮膚で素通りだ。君ん所の本なんか、みんなばくん所へ持つてくる必要あるな。だつて君なんかのオモチャにするにはもつたない」。

これくらい云つてもやはり駄目。「し<sup>やう</sup>ががないんだよ。どうせ僕は駄目なんだよ。君のやうにはいかなのだよ」「そんな風に云ふならもう手はないね。もうまじめぢやないんだからな。悲観したな」「だつて君のことぢやないぢやないか」「僕のことだよ。僕だけぢやない、日本のことだよ。君は自分だけの責任で自分だけのこととして妥協するつもりかもしらんが、どうして〜。僕のことでもあり我々の及び我々の後の全世代に關することだ。少くとも君の今度の結婚は、僕の理論の敗北であり、僕の努力の敗北であり、僕の説得力の敗北だ。僕が君の皮をはいでやるのが出来なかつたんだ。君は何度も調査会へは入つてよかつたことは、僕と話をしたことだとお世辞みたいに云つたね。いやほんとにお世辞にすぎなかつたんだ。僕は君からさう云はれて嬉しがつてゐたが、馬鹿だつたんだよ」。

之にくらべると臼田君の方は大分しつかりしてゐます。一昨日書いてゐた長い手紙も出したさうです。女だけにやはり真剣に考へてゐる。僕のいつもシヤバることについても、よく考へてゐるらしく、森井さんに一々はなしたり、自分の後輩の共同生活者に話したりしてゐるやうです。最近はアンネットをもう一度読んで、アーシヤとマルクとの關係について考へてゐるらしい。「アーシヤのやうに、はつきりと彼を要求してゐるんぢやないわ、何だかあたしの感情も頼りない、漠然としてゐるわ。今までは自分の感情は恋愛だと思つて来たけれど、彼があたしを欲求してゐないのに、あたしは彼を欲求すると云ふのは変ね。やつぱり観念的だつたのかしら。彼はまだいろんなことで考へかたが古くて、あたしには承服出来なくなつた。彼は家族制度を脱して来たんだし、徹底的に合理的科学的だから信頼してゐたんですけど、菊池さんのやうにあらゆる生活部面まで、理論的に統一されてゐると云ふ風なのぢがふわ。まだずい分封建的だわ」。「そりや僕は斗<sup>ま</sup>はねばならん状態にあつたからこそ、あらゆる問題について一通り理論的検討をやつて来たんだけれど、普通はさうぢやないよ。普通の男性はさうした問題で考へる機会に恵まれないんだ。だから親からの或ひは社会からの偏見をそのままもつてゐるんだ。僕等の友人でずい分進んだ考へをもつてゐる人々でも、その問題では解放された観念をもたない。だから、今そのことで偏見を脱してゐないと云ふことだけでは、判断出来ない。今を機会にそれらについて充分考へさせるんだ。そしてそれについて自発的にも考へ、正しい見解に達したなら、それでいいわけだ。だからもつともつと自分の考へを相手に嵐のやうにふきあて、相手にも意見を發展させる必要がある。現在の君たちの關係はリーベとは云へない。リーベとはあくまで相對給付的で、相互の内質からの欲求から構成される。欲求と云つても何を欲求すると云ふ風なものぢやない。全体を欲求するんだ。いはば心の傾斜だ。いやおうなしに双方から相手に向つて心も全身も傾斜し欲求し結合するんだ。だけど君たちの意見の交換からリーベに發展し得る可能がある。そして君は自分

の当面してゐる現実を最も誠実に全力をあげて体験するんだね。あらゆる問題について考へ、確信を以てやりたまへ」。彼女も本の読みかたを知つて来たやうです。竹中君の魅せられた魂の読み方とくらべると、やはり彼女の方が上のやうです。僕は大金嬢や西山嬢の本の読みかたをしきりと彼女に伝へたのです。「菊池さんのおつしやつたことを考へながら読んだら、迎もよくわかつたわ。あたしも今まで人に本をすすめるのに、自分の意見をいろ／＼云つて読ませたけれど、その場合あたしの云つたことでも、次に読む人には可なり影響を与へるのね。所があたしはちつとも生活の必然性を以て考へた意見を云つたのでなく、思ひつきみたいなことしか云へなかつたんですわ。だから今になつて、これまで人にすすめた本を全部とりかへし、云つたことを全部とりけしたくなつたわ。本てずい分いろんな読みかたあるのですね」などと云ふ程度になりました。

此の頃こんな手紙ばかりで、あなたを失望させてゐるかも知れませんね。だが二人の若い人にとつての人生の重大問題に、やはり僕も全力をあげて助言し判断してやる必要があります、その助言が効なく終るにしても成功するにしても、僕の人間関係理論の豊富化に少なからずプラスになると思ふのです。また成功するとしたら、僕達の之までの全生活体験は、僕達の私有財産でなく、多くの人の生活の中へ共有財産として生かされて行くわけになるのです。午後あなたの十七日付お手紙来ました。

たばこ、喜んでくださつて有難う。次の分を明日送ります。今度は「光」です。一箱は北条夫妻に進呈したので五箱分です。北条君は原稿書くのにどうしてもほしいと云ふので。明日また六箱は入りますが、之は六箱とも送ります。「ひかり」も数日前から送るつもりだつたのですが、何か一緒にと思つてついおびました。ソフォクレスと一緒に送りませう。ソフォクレスのアンチゴネー、オイジプス、エレクトラ、ディアネイラ、ピロクテテス等を熟読して下さい。アイスキロスと読みくらべる場合、アイスキロスには歴史の叙事詩があり、ソフォクレスには性格の創造があることに留意すべきでせう。それにしてもアイスキロスのプロメテウスのすばらしさ、何とも云へない壯嚴（雄偉）な、実に人類史最大の文字（文字）が含まれてゐるのでないでせうか。プロメテウスの中には、もう個人でなく個性ですらなく、直接に歴史そのものの叫びが、不滅な大文字として結実してゐると思ひます。ソフォクレスの「トラキスの女達」は、ヘラクレスの形象も雄大ですが、ディアネイラもすてきです。之はユーリピデス（古典劇大系の第二巻）の「ヒッポリトス」のファイドラ（ラシーヌのフェエドル）と対比すると面白い。ディアネイラは単純であり健全だが、ファイドラはもう不健全です。之はソフォクレスの時代とユーリピデスの時代との差でもあるでせう。もうユーリピデスに於ては、歴史にすっかり足をつ



けた確信のある単純で偉大なギリシヤ民族はぼつ／＼姿を消し、歴史的な自信を喪つて、個人的関係の特殊へ関心を向ける気配が見える。

本は竹中君が動揺してゐるので、金を返す必要もあるかも知れないので、暫く見合はせました。残念だが本よりも彼の問題の方が重大です。

米も炭（一俵）も配給になりました。今度の米はいい米です。米は配給なくとも一ヶ月分（一人前だが）ぐらい余裕をつくり出してあります。いねちゃんでも焼け出されたら役に立つてせうから。風邪はまだ鼻からぬけません。だが大したことなくほぼすみました。

昨日北条夫妻にブルーズとズキンとをつけてみせたら、よく似合ふとほめられ（？）ました。北条君はモンペにも大変うらやましうにしました。まだブルーズで大丈夫です。

竹中君説得についてのあなたの力づけを有難くよみました。僕も今日なんかはつく／＼一種の敗北感で不機嫌になつてゐました。あなたの云ふやうに、がっかりせずにもあ出来るだけやつてみませう。

「緒論」の批評ありがたう。僕も前にも云つたやうに、緒論には一番力をかけたので、はじめそれが「わかりにくい」とか「文章がわるい」とか云はれて、たしかにさうでもあるのですが、漸く安心しました。尤もやはりもつとわかりやすく、もつと上手にかかねばならなかつたと云ふことは依然として真実ですが、それにしてもあなたの歴史観の基礎づけに役立つたことはうれしいことです。

歴史について重大なことは、歴史的問題提起を読みとることです。歴史は或る事を夫々の時代に歴史的課題として問題提起する。その問題提起は大いには、その時代の最も切実な人間行動の中に、多かれ少なかれ明瞭に表出される。歴史的洞察とは、人間の歴史的行動の中に表出されてゐる歴史的課題提起を適確に読みとることだ。さうすれば、その問題提起に関して、それに対する二つの態度、一つは問題を提起し解決しようとする態度、もう一つはそれを阻止し歪曲し、サボリ、裏切る態度、この二つを見出し得る。そして前者は歴史の進歩を齎し、後者はそれを阻害する。歴史家はこの二つを見出し価値評価せねばならない。云ふまでもなく、歴史的問題提起と解決努力とを評価し、それらこそが歴史を推進させて来たことを闡明せねばならない。さうすることは我々自身の当面する歴史的課題を把握することであり、その課題の解決の努力を支持し、我々自身を歴史の推進へと参加させることになる。いな我々だけでなく、一般の民衆を、<sup>③</sup>そうしてこそ歴史学の真の意義が確認されるのです。歴史学だけでなく、一切の学問、芸術はすべて夫々の歴史的課題、

歴史的問題提起を内容とせねばならない。僕の「プランテーション」もさう云ふ歴史的問題提起として価値評価されればいいが。さう云ふ意味で劃期的と評価してくれる人はないものかしら。もう一つは、「プランテーション」の中に啓蒙的意義を認めてもらへたら文句ないのです。むろん僕のやうな未熟さと書きかたの粗雑、書きながし（時間の少なさにもあらはれてゐる）では、「問題提起」と「啓蒙」との統一に成功し得べくもなかつたが、少くともその統一の努力はあつたし、外のいろんなものに比べてその統一の努力が少いとは思はない。

歴史的問題提起と云ふことに聯関して、歴史の必然性と可能性との問題が重要になる。例へば独立戦争の時、奴隷制プランテーション制度の解決は可能であつたか、可能であつた。ではそれは必然的であつたか、いな必然的にならなかつた。何故か。その可能性が歴史的主体（民衆、歴史推進力としての民衆、従つて当時の農民、都市民）によつて明瞭に意識されず、従つてその可能性を現実性にまで、必然的なものにまで実現させ得なかつた。可能性を必然性にもち来らずものは、歴史的主体の明瞭な意識的行動である。だから歴史の進歩に反対し、歴史の停滞に利益をもつ連中は、その可能性を単なる可能性に終らせるために、歴史的主体の意識的行動への成熟を阻害し、そのヘゲモニーを奪取して進路を歪曲しようとする。この二つのものの抗争の力關係によつて、歴史の進路なりテンポなりが規定される。すなはち歴史は凡ゆる可能性を多くの場合あだ花におはらせつつ、人間の血と富とをその都度浪費しつつ進む。にも拘らず歴史的主体（民衆）は、それ自身の中世的農民から近代工業労働者への成長につれて、次第に歴史的可能性の把握とその必然性への転化とに成功の率を多くしはじめ。かくして歴史的主体はますますはつきりと歴史的問題提起をやり、ますます意識的歴史行動を展開させるにいたる。かくして歴史は歴史的必然の道を断乎と進むやうになる。浪費は少くなる。ジグザグは少くなる。

それだのに現在のこの膨大な浪費！だがこの膨大な濫費も、之までの凡ゆる歴史的問題提起をあいまいにされ、逸し、埋没され、歴史的可能性を確実に必然性にまで発展させ得なかつた結果であり、そのかはり今度こそは最もはつきり建設されねばならないことを会得させる。浪費は浪費で終らないでせう。

ソフォクレスの中にS氏のキリヌキを入れておきました。

いつでも力と力との格闘。歴史的に問題提起し（身を以てするにせよ、意識を以てするにせよ）、問題を解決しようとする力と、之を阻止し歪曲しあいまいにし埋没しようとする力との格闘。その力の基礎と発現、その力の根拠と理由と態様を見出し描出すること、之が歴史家の任務。または歴史を読む者の心がまへ。



どうも、同じことばかり書いてみて、一向新しいことを云へないやうで気がさすが、やつぱりこれらのことを凡ゆる角度から人にも説き、自分にも説かねばならないのでせう。結婚や恋愛の問題でも。

もう十一時になりました。ではおやすみなさい。今日は割合ひあたかかった。曇つてゐるが天頂の方ではうすく星ものぞいてゐます。

なほ気がついたら飯田の国益社と云ふハンコやで、僕のハンコを受とつて来て下さい（国益社の位置を示す図は省略―編者注）。

### 幸子から謙一あて（一九四四年一月二日の記・消印）

十一月廿一日曇、十四度

さつき粉とうどんとパセリ送りました。うどんは小包みの格好上、二つ折にしましたから、パラ／＼になりましたが、あれは農家のお手製でおいしい筈です。おさつもいれ度かつたのですが、目方が超過するオソレありで止めました。

今日は今まで一字も字を読めませんでした。急ぎもののぬふものや、小包み（四個）作りや、お勝手、早苗の世話ばかり。早苗のために随分時間をとられて、たまにはうるさくて嫌になつて来ます。ほつておくと、近所の子供を連れこんで来て庭をよごす、廊下は砂だらけ、早苗の部屋ばかりでなく、次の方もおもちやだらけです。

子供が遊ぶのは思ふ存分汚くする事が本来ですからあたり前ですが、お母さんが神経を立てて見てやらぬとか、後から／＼追ひかけて片づけてやれとか、不可能な事を云ふし、他所へあそびに行つてゐると、早苗はどうした／＼と十分位に呼び立て、其の揚句はふうちゃん丈でなく、皆おこられますから、外へもあまりやつておけず、抱いて本をよむとかがお母さん流には一番良いお守りであり、子供の育て方らしいのです。子供は二十分も本をよめば、もう一とところにおつとなんかしてゐませんものね。叱り方も毎日／＼一定せず、自分の御都合次第で、昨日よかつた事も今日は許されずでは、早苗も途方にくれますわ。こんな様子を見てゐると、私に子供がゐらない事が、こんな場合は有難いと思はれて来ます。お母さんの気分次第で、早苗に大人に云ふ（お）ような小言の末、云ふ事をきかないから、大きくなつたら親泣かせだ、不二が見てやらぬからだ、その時はいい気味だと笑つてやる、なんて云ひ出しますから、正気の沙汰とは思へません。不二ちゃんが早苗のわがまを叱つてゐると、何時でも邪まをするのはお母さんで、早苗はママに怒られたらおばアちゃんに甘へ（お）ればいいと思つてゐるし、お母さんは早苗がよからうとわるからうと、自分をたよつて来さへすれば早

苗をベタに甘やかし、不二ちゃんや其の他の人を怒りつける外は手を持たぬのです。そして自分の云ふ事をきかぬ時は、不二が甘やかして世話をやかぬから悪いと云ふのです。本当に正気だと思へないわ。不二ちゃんの考へ通り、お母さんに異論あらうとも、させたら、こんな馬鹿げた事を年中くりかへしたり、人の時間を目茶くにするような事にはならないのかわ。実にお母さんの不合理主義、専制主義、御都合主義はやりきれません。

私が不平でおだやかでないと思ひでせう。でも実はそれ程でもありません。唯、世の中に不合理程嫌なものはないと云ふ事をつくづく感じさせられました。だから自分の中の不合理―あなたをよく云ふ、普遍的なものへの結ばれないもの、個別だけのもの―をも徹底的になくする事を、今更のように思はされます。

今朝はなんだかあなたの夢を見てゐたわ。旅行の様などころもあつたし、防空壕の様などころも、長い／＼はてしの無い様なまはり階段もありました。それから蛇が三匹出て来る夢も見ました。蛇は夢の中ではエンギのよいものだ相ですから、目がさめてから、近日あなたのプランテーションが出るのだらうと思ひました。概してみる夢は佳しく、淋しいはてしのない道をゆく時の様な心持の多い様ですが、他の人もさうかしら。浮たつ様な楽しい夢なんて、めつた、見た事はありません。何時もセカ／＼と落ちつかぬ気持で、何処からか何処かへゆく途中の、あはたしい気分のものばかりです。夢の世界とは佳しいものだと思はざるを得ません。

今日は本当に変てこな手紙になりましたが、ここでやめて一応投函しませうね。これから夕方掃除にかゝります。幸子  
謙一様

### 謙一から幸子あて（一九四四年二月二日の記）

十一月二十一日（火）曇雨

十八日付のNo.29お手紙拝見。この頃のあなたのお手紙は、中々充実してゐて二重に嬉しく読みます。

ペラグラの話は大変面白かつた。ペラグラについてのあなたの意見も立派です。簡単なことに見えるけれど、問題の本質をしっかりとらへることは、多くの人には出来てゐないのです。問題がどこにあるか、どこでどんなかたちでいかなる問題が提起されてゐるか、と云ふことを認識するには、洞察力がなければならぬ。あなたはもう、社会的にも歴史的にも本質的問題を把握し、洞察することが出来ます。之は今まで出来なかつたと云ふわけでないけれど、今まではま

だ思ひつきのやうな、勘にたよつたやうな、単に機敏だと云ふだけの程度の理解方法を克服し得てゐなかつたが、今はそれが論理的で科学的で、たしかになつたのです。問題がいかに提起されてゐるかを洞察し得る者は必ず、問題の解決の契機と方法を洞察し得ます。例へばペラグラを丸薬で解決したと思つた人々は、ペラグラと云ふものの問題の本質を洞察してゐないのであり、従つて彼等に於ける問題提起は浅薄で一面的なのです。そんな風に問題提起と云ふことにしろく質の差があつて、本当の問題提起をやらない限り、問題の本質を把握しない限り、その本当の、徹底的な解決の方法も契機も見出されないのです。しかも問題は、人から認識されなくとも常に提起され、執拗に提起され、さう云ふ問題の解決の方法も契機も、現実の中ではつきりとあらはれてゐるのに、それでも多くの人は気づかない。いや気づくと云ふ風なものでなく、ここには洞察と云ふことが必要なのです。紙一重のところを一步つききつて認識するにも、質的に一段進んだ認識力、すなはち洞察が必要で、その洞察がないと、目の前にごろく問題がころがつてゐて、それを毎日見、聞き、体験してゐても、意識出来ないものです。この紙一重と云ふところに、認識に於ける量と質とのデアアレクティクの問題が鮮かにみとめられる。

そしてあなたの之までの認識力には、まだその紙一重をつきぬけたところがはつきりとはみとめられなかつた。鋭い理解を示し豊かな味解を示し、それらではたしかに僕の感受力や理解力よりすぐれてゐることを示してゐても、まだそれがたしかではなかつた。論理的でなく必然的でないものを感じさせた。それが此の頃では、たしかになり必然的になつたのです。紙一枚の進歩かも知れないけれど、僕にはあなたの認識力の飛躍的な進歩に感じられるのです。いはば、あなたのこの頃のお手紙は、あなたもはつきりと弁証法を把握したと云ふことを示してゐる。デアアレクティクな方法①を（認識方法）を自分のものにした、洞察力を獲得した、と云ふことを示してゐる。

こんな風に云ふと、生意気な云ひかたに聞こえ、何だか僕が非常に高い所から、実はそんな資格もないやうな高い所から、威張つた口をきいてゐるやうにとられる可能性もあるが、正直に云つて、歴史的な社会的な政治的な問題の把握力、現実の理論的理解力では、僕の方があなたより進んでゐると思ふ。ところが今はそれが同じ水準に達したのです。この方法さへ会得（かう云ふ認識のありかたは、封建時代の武道や手工業の秘法伝授、奥儀会得などと一脈通じるものがある）すれば、あとは我々の差は歴史的事実をより多く知つてゐるかいなかの差、視野の広狭の差にすぎない。だが我々の理解力は現実なり歴史なりの把握のほんの第一歩にすぎないので、第一歩をふみひらいたことの価値を充分意識し評価しつ、第二歩、第三歩をふみ進まねばなりません。

そのためには今獲得した方法を、多くの現実なり歴史なりの勉強できたへ上げ、豊かにし深め強めねばならない。アイスキロス、ソフォクレス、シエクスピア、バルザックを読みなほすのもいいし、アメリカ史をやりなほすのもいいし、我々自身の結婚生活の歴史を検討するのもいいし、我々の心の交流を検討するのもいいと思ひます。いづれにせよ自分の眼、眼鏡にたすけられたそれではなく、自分のものとしての眼をはつきり獲得したのであれば、その眼ですべてを見なほすことはいいことです。同じ本を読んでノートとるにしても、之までは人の云つたことの抜きがきか、要領をまとめるか、素材を整理するかであつたのに対して、之からのノートは、あなたの独自の思考の記録になることと思ひます。それは一大進歩でないかと思ふ。かう云ふあなたの認識の飛躍的前進に、僕のプランティションが楨杆の役割を果したとすれば、僕もこんなうれしいことはないわけです。

僕自身多くの人々を見て来たけれど、我々の今達してゐる程度の洞察力をもつてゐる人もさう多くはありません。僕がいつか「プランティション」を読んでほしい人としてあげた人々、羽仁、北山、小此木、北条、岩上、之等の人々が僕等の上にあるのみです。無論まだつきあつたことのない人々にはうんとゐるかも知れないが。羽仁さんがいつか僕の「才能を百パーセント評価する。もつと自信をもちたまへ。T君(原文)やO君(原文)は君よりずっと小さい才能でも、君よりずっと大きい自信をもつてゐるのだ」と云つたのは、あの頃は半信半疑だつたが、今ではやはり本当だつたと思ふ。また北山君が、僕の批評をあんなに喜んでくれたことも、僕自身の洞察が他よりすぐれてゐたことの証左の一つでせう。さう云ふ風に考へれば、あなたの今達してゐる理解力が、どの程度の水準のものかわかると思ひます。手前みそのやうだが、やっぱり之は本当です。

僕等は時々、自分の力を確認する必要がある。自分の力の確認には、やはり人が自分について何と云つたかを知ることが非常に有効です。上記の人々に「プランティション」の批評をききたいと云ふ意味はよくわかつてもらへるでせう。そしてあなたは上記の人々の列に今は入つたのです。今まではまだ僕が半ば強制して、読んでくれ理解してくれと云つてゐる程度だつたが、これからはほつといてもきつと読んでくれるし理解してくれるし洞察してくれと思ひます。今その眼で「ダイヤモンド日報」を読んでくれると、きつとあれが「しぼりかす」で駄作であることがわかるでせうし、「プランティション」がずつとすぐれてゐることもわかるでせう。また同じ「プランティション」でも、どの章のどの部分が力がこもり情熱がこもりすぐれてゐるか、どの章が不純で迫力がないかを見分けられるでせう。それを指適(適)して下さい。ゆつくりでもいいから。

とにかくこの頃のお手紙で、僕は最愛の、いや世界中さがしても得がたい妻をもつてゐるだけでなく、また最も立派なたしかな伴侶的理解者をもつてゐることを感じつつあります。歴史理解力、歴史洞察力は、同時に人間理解力であり、人間洞察力なのです。ところでペラグラのその本、読んでみたいものです。あいたら見せて下さい。「プランティション」を書く前に読んでゐたらよかつたのに。そしたらきつと、あなたが書いてゐるやうな批判をつけて、註の中へ入れたことせう。アイスキュロスもソフォクレスも、今までに読んだとしても、もう一度読みなほしてごらん。き□といろんなことを知るでせう。同時にあなた自信の理解力、洞察力の進歩を確認するでせう。

今日も竹中君、やつて来ました。

「また敬意を表して来たよ」「いくら敬意を表されても、金貸してやらんぞ」「いやあ、その敬意ぢやないよ」「無論さうだらうがね。ところでどうだい」「何が」「結婚問題でせう」と之はわきから臼田君。「もうきまつてゐるんでせう、竹中さん」「いや、まだきまつてなんかゐないねえ。寸前にでも撤回出来ることなんだから、まだきまつたとは云へないのだらう」「うん、まだきまつてゐない」「さうだらう。きめちや駄目だよ、もつと考へ抜かなきゃ」「あたしは竹中さんの気持がもうきまつてゐるやうに思ふね。ためらつてゐるやうでも、事実上きまつてゐるんぢやないかしら」「駄目だよ、そんなこといっちゃ。きまらしちや駄目だ」「だけど一応見合ひだけして、あとお互ひに理解するために交際したらいいぢやないか」「駄目々々。いひなづけとして交際するなんて意味ないよ。いひなづけになつた時、既に問題は決定してゐて、あとお互ひに理解するなんて、ちつとも本当の内質の理解へ行くもんぢやない。たか／＼結婚生活のウォーミングアップに気分をあはせるだけの程度だ。第一女の方では、いひなづけになつてからなかく／＼ことはれるもんぢやないし、男の方からことわつても、女にとつては非常にむづかしい不利な条件になる。見合ひすることは、人間的欲求から出た人間的行動ぢやないんだよ。人間的欲求から出た人間的行動でないことから始つた人間関係に、人間的欲求なり人間的行動なりを期待出来ない。大体君は兵隊に行く前より考へかたや生活が卑俗になつたね」「さうか」「兵隊に行く前、殊にその直前には君は、個別を克服出来る程度に強くなり、精神も考へかたも緊張してゐるが、帰つて来たらくも弛緩してしまつたやうだ。兵隊に行くともさうなるらしい。精神の緊張がゆるんで、考へかたがいい加減になる。まるで権利のやうに緊張をゆるめるんだ。警戒せんといかんよ。精神のその弛緩の結果、実にいい加減な没原理的な結婚をする例が多い。さう云ふ場合は妻君になつた女の立場はもつと悪いことになる。さうだらう、相手は兵隊へ行つて来たことの権利として無責任になつてゐるんだらう。だからその無責任な行動を責めることすら、女の側には

はばかられるんだ。戦争へ行つて来たと云ふことは、男にも女にも、また周囲の人にも、一種の聖別（せいべつ）にみられるんだからね。遂には責任無能力が聖別されることになるんだ。丁度傷痍（けい）が聖別されるやうにね」「さうだわ、そんな小説あつたでせう、ほら、兵隊から帰つていい加減な結婚観になる」「斗魚（とぎよ）だらう。たしかどんな風だったか忘れたが、さう云ふ素材だったね。何しろ兵隊になると、セミトリやウグヒスの谷渡りなんかやらされて来るんだから」「よく知つてね」「やらされたんだらう」「セミトリやらされなかつたけど、ウグヒスやらされたよ。何でも知つてるね」「知つてるさ、君よりよく知つてるよ。君はやらされても、その意味や帰結まで考へてはゐないやうだが、僕はそこまで一通り知つてるからね。要するに君のやうになるのさ。責任無能力者になり、なり行き主義、没理論主義、どうでもいい主義になるのさ」「さうかも知れないね」「オブローモフだからな君は」「ほんとだ、オブローモフ読んだらいいやになつた。よく似てるんさ」「太つてるところまでね。ブヨ〜とね」。

「竹中さん、あたしは女として忠告しますけれどね。お母さんが好きだからと云つてさう云ふ人と結婚する時は、お母さんの好みがながつづきするものでないことを、よく覚えておく必要があるわよ。あたしの友達に、相手のお母さんに好かれてお嫁に行つたところが、今は逆に憎まれて迎も不幸になつてゐるのがあるわ」「そりやさうだらうね。君のお母さんがその人をすすめてゐるんかね」「いや、僕の母はそれほどでもないんだがね」「さうだらう。結局君も結婚したいんだらう。相手はとにかく、結婚と云ふことをしてみたいんだらう」「あら、男のかたは相手なしに結婚したくなるつて云ふことあるのかしら」「あるんだよ。恋愛を恋愛することは独歩も書いてゐるけれど、結婚を結婚として欲求することもあるんだ。前者の方は大分純粹で、まだ同情出来るがね。大体何でもいい結婚したいなんて云ふ欲求は、外に生活をもたん人間の欲求だね。現実には竹中君は外に人間的な人間関係ももたないし、情熱をこめるやうな仕事も、身をうちこんだ勉強もないのだらう。だから結婚のために結婚したいなんて云ふのは、自分の生活の貧困、無内容の告白ではないんだよ。恥づかしいことだよ」「さうかも知れないね。だけどそれだけぢやないよ」「そりやそれだけぢやないさ。家の人達への考慮、親の希望もあるさ。だけど君は自分でそこから眼をそらさうとしてゐるが、君自身の生活内容欠除（けつじょ）ねばならないこと、従つて当人によつてのみ本当に決定することなんだからな。しかしまあ何だ。結婚も結婚だが、一つ自分の生活をしつかり建設する努力が必要だ。仕事なり勉強なり友人関係なりに、うちこめるものをつくり出すんだな」「それはさうだね。そのことは僕もよく感じてゐるよ」「さうすれば、相手のない結婚なんて云ふ風な遅れた欲



求は後退して、両親の世話なり、両親を安心させることなりについても新しい道もひらけるだらう。結婚は当分待つんだね。悪いこといはんから」「やつぱりよす方がいいかな」「さうよ、三ヶ月待つべきだわ。兵隊から帰つてまだ二ヶ月もたないんですもの」「さうだ、その頭が一人前の市民程度にのびるまで待ちたまへ」「うん。それにしても君とつきあつたのは運が悪かつたと思ふよ」。

「さう云ふのは君の中の一人だが、君はもう一人あるぜ。もう一人の方は運がよかつたと云つてるよ」「うん」「君は二人あるんだよ。一人は原理に従つて正しく生きようとし、もう一人はいいかげんにやらうとする、その二人だ。一人は個別を普遍へ引き上げ合体させようとし、一人は個別の遅れた要素を固定しよう、そこへもぐりこんで安住しようとするんだ」「また普遍と個別か」「さうだよ、何度でも。併し自分の中のその二人を識別することは必要だよ。その二人を疎外して客体化して、とつくみあはせることが必要だよ。さうすれば自分が卑少①か正しいかよくわかる。自分の觀念が二つの対立物の斗争であることを常に考へるべきだよ。そしてそれをはつきりさせるためには自己疎外をやるんだ。自己の客体化を。自己の外化を。オニールの『限りなきいのち』のやうにね。そして自分の中のオブローモフをやつつけるんだ。結局君が正しい行動を、信念に従つた行動をやるかやらないかは、君の中の正しい分身とオブローモフの分身とのたたかひに、前者がより優勢になるか後者がより優力②になるかによつてきまるんだ。そして僕がこんなに一生懸命にしゃべるのは、ともすれば弱氣にだまり込もうとする君の中の正しい分身をふるひ立たせるためなんだ。君の中ではオブローモフは大分大つづらにのさばつてゐる。殊に兵隊生活の中で毎日めしを六合も食つて肥つたために、君の中のオブローモフはぶく／＼にふくれ上つてるんだ。君のオブローモフは、子供の頃から一人子としての生ひ立ちの中に肥満させられたんだらうけれど、今は君自身の責任だよ」「うん。本当だね」。

大分脈が出て来ました。此の頃は堀江君もよく二階へ来て、援護射撃をやります。「結婚で失敗したらとり返しがつかんぜ」とか何とか云ひながら。

白田君の方は、この間の返事が来ないので、暫く竹中君の材料で考へをねつてゐるかたちです。毎日、余り論理も発展しないことをこんな風を書くのは、余り意味がないかも知れませんが、まだこれがどんな風になつて行くかをみてゐて下さい。手紙へ書くのは、書くときに思ひ出せた言葉だけで、本当はこの数倍もしやべつてゐるのです。昼の時間か、朝、西井君が出て来るまでの時間を大ていつぶしてしまひます。

今日もうつとうしい日。今日はホウヨクとキンシ四箱と配給ありました。之は二、三日中に送ります。なくなる頃につ

くのがいいのでせうけれど、何日ごろがいいですか。こちらから送つてあげられるものはタバコぐらいいしかななくて残念です。

僕の食糧は目下充分です。オモチもまだ二つのこしてあるし、ササゲも半分くらい残つてゐるし、大豆も大切にたべてゐます。パセリもサトイモもまだ少しあります。柿は数日前においしくたべました。

ピアノはトロメライをしあげました。あれは普通に知られてゐるより長いのです。  
では又。

和歌山行はもう少し早ければよかつたが、もう寒くなつて、暖房がないからつまらないでせう。戦局の見とほしも必要でせうし。また機会があると思ひます。手紙でも出しておいて下さい。僕も出しておきます。

### 幸子から謙一あて（一九四四年二月二一〜二三日の記、二三日の消印）

十一月廿一日夜

今日は用事多く、ノオトの方はすこしおくれてしまひました。六節の七の途中までよう／＼すんだ所です。

六節の七は私刑、人種暴動、デマゴグ、プアホワイトの成長と云ふところです。特に人種暴動に就いて書いてゐるところは、中からほとぼしるものを感じさせられる書き方です。あそこを読み乍ら人々は思ひ起す事があるでせう。震災の時の竹槍事件を。いろいろぼんやり持つてゐた疑問を氷解するでせう。いためつけてゐる者の恐怖、又それを煽る事によつて、その制度を維持させるところのものへの憎悪を新にするでせう。白人細民の心理、自分等の現実への不満、反抗を、あのように歪めて表出する経過のところをよんでも、吾々のまはりの社会の凡ゆるところに見受ける姿だと思はざるを得ません。何故さう云ふ形態が形成されるかも、よく納得出来ました。

併し黒人奴隷が自己主張を、逃亡や暴動と云ふ形によらず、自分等の同盟組織や、クロットパーユニオンなどと結びつつ、白人と協力しつつ果さうと云ふ方法をとるに至つた事は、歴史の進歩への確信を抱せられます。

十一月廿二日晴（火）

すばらしい朝です。それに暖い。今日は一日机にゐてやらうと思ひます。九時前に掃除も後片つけもおいもふかしも全

部すませ、折柄の来客にもサーヴィス済みしました。もう暫く勉強してから再び、手紙(マユ)を続書きませう。十畳の部屋では桃ちやんが化学の勉強をしてゐます。お母さんと早苗は風越館にゆくかも知れません。願はくばさうなつてほしいものです。

大金嬢から手紙が来て、あなたの手紙の□は実に参考になつたこと、どうも見合結婚は正しくない(ヨ)な心理的ティ抗を感じてゐるが、あの手紙ではつきり理論づけ出来たこと、この人こそと思ふ人が出て来るまでは、どんなに云はれようとがん張れる自信が出来たこと、考へてゐた方向の方へ解決出来て、モヤ／＼の心身共にサウカイになつたこと、今後此の問題でなやむ事はなだらうとのこと、等々六枚に亘つて書いてあり、終りには何度も／＼感謝し乍ら信子と結んでありました。大金さんが単純なせい(ミ)かも知れませんが、竹中さん程ごぢれ(シ)ませんね。一諸に勉強して来たかひがあつたとうれしくなりました。大金さんは又バルザック熱が再発して、ウン／＼云つてゐる相です。水戸まで本買ひにチヨイ／＼出るが、本が全くないので悲しいと云つてゐました。西山さんの方は八月からぱつたり便りがありません。内藤嬢は放送局につとめる相です。

今日は一時間位かかつて、桃ちやんにプランテーション制度とプーアホワイト(第六節全部)の話をしました。もとは桃ちやんが私のノオトを手にとつてみて、ヨーマンとかプーアホワイトとかの質問をするので、これ幸ひと復習のつもりで話しました。さうしたらとても興味を示して、それ以前のところも、あともきゝたいと云つてゐますから、其中、又やるつもりです。桃ちやんはアメリカにはプーアホワイト的存在であるとは思へなかつたと云つてゐました。タバコ・ロードがあればなあと思ひました。たとひ桃ちやんでもそばで興味を示し、きいてくれるとうれしくなります。従つて前から云つてゐたあなたの気持、充分わかりました。協力者、理解者になれなかつた事のいけなかつた事、よく／＼わかりました。

十一月廿三日

ゆうべはおふろのあと、桃ちやんがときものをするから又つづけけてほしいと云ふので、緒論のノオトをやりました。よくわかるしおもしろいけれど、一ぺん一とを(ハ)りすんだら、もう一度やつてほしいと云はれ、ます／＼うれしくなりました。むづかしいかしらと云ひましたけれど、それ程むづかしいとは思へない。ぼんやりしてゐた事がつきりして来た。でも、まだ何度もききたいと申します。きつと私の説明もうまいんだわね。

今日は又まつ白の霧、さむい〜。  
 これから炬燵（二階）で第二章の四節、五節をやりやります。私も随分勉強になります。では又あとで。

謙一から幸子あて（一九四四年一月二二〜二四日の記）

十一月二十二日（水）晴

今日はお手紙が来なかつた。おひるに買ひ出してサトイモ一人当り八百匁の収穫でホクホクもので帰つたら、利ちやんが待つてゐました。十月二〇日から十一月二〇日まで一ヶ月、千葉の成東とかへ勤勞奉任<sup>(註)</sup>に行つたのですが、一ヶ月の間に二貫余り肥つて、十七貫何百かになつたとのこと、すつかり陽やけもして服がハチ切れさうでした。「よかつたね。もう行かなくていいんかい」「まだ年末に今度は工場<sup>(註)</sup>行きがあるらしいです」「もうぼつ〜農閑期だからね。勉強の方はどうなる？」「農家では十畳ぐらゐの部屋にたつた二触光<sup>(註)</sup>の電灯しかつけてくれないんで、本が読めんで困つた。一ヶ月の間に休みは今月四日お祭の日一日やし、半ドンが三回あつたかなあ。労働は相当きついですよ」。地図を出して「千葉の成東か、なるほど。湿地だね。近処に温泉があるぢやないか」「田んぼは膝までずぶ〜は入つて、大部分牛を使へんさうですよ。田んぼだけで二町歩あるのを、十九の男の子と女の人二人と、僕と僕の友達と之だけで刈つたんです、刈るだけで十日かかりました。温泉なんか行くひまなかつたし、行かしてくれへん。ふろが一番弱つたなあ。時代もののふろで、桶のふちがこのくらゐほど（手で示して）かけてて、胸までは入らないのに湯がざあく〜出てしてもて」「ふうん。しかしずい分肥つたもんだね」「いやになるほどいもを食つたし、始め十日ほどは野菜はつかりやつたけど、十日目に村でブタをつぶしてくれてから、ちよく〜鳥を食はしてもろた。先生なんて、卵百個に鳥に何やかや一ぱいもろて帰つたですよ」「けしからんなあ。ナンキンマメ食つたかい」「あの辺南京豆駄目ですよ。一度食つたけど、ナンキンマメの皮ごとゆでたやつで、枝豆みたいな味で、ナンキンマメの味せなんだ」「もつたないね」。買つて来たサトイモ少し持つて行かんかと云つたら、いもはもうあき〜しました、いいですよ、と云つて帰つて行きました。外食券余つたからと云つて十枚置いて行きました。これでおかずつきの御飯を食べるあてが出来ました。外食券妙にさびしいやうにきこえる云ひかたでせうが、実はさうでもない。おかずがつくれなのは、物がないと云ふより調味料がないのと、面<sup>(註)</sup>休<sup>(註)</sup>なのと、智<sup>(註)</sup>エ<sup>(註)</sup>もない故なのです。栄養もカロリーも、おかずつきの外食券食堂のごはんより、は

るかに上ですから御心配なく。殊に豆は唯一つの蛋白源だが、これを飯にまぜれば立派な栄養食です。間もなく伊藤君から電話がかかつて、彼の知人で戦死者の未亡人が離縁を望んでゐる事件で、相談にのつてくれんかと云つて来たので、ぢや廿四日にダイヤモンドへ原稿を届けるから、銀座で会はうと約束しました。まかりまちがへば、正木さんへもちこませう。

午後三時半頃、例によつてブルーズとジャンパー、無帽と云ふいでたちで成城の北条君を訪ねました。荷造りや家の片づけでごたくしてゐたが、結局サツマイも食べながら夜の十時半まで、考へてみると六時間半ばかりシヤベツてしまひました。

「新しい原稿を明日書かうと思ふんで、『プランテーション』の批評ききに来たよ」「さうか。一通り読んだよ。家がごたくしてゐて、も一ぺんゆつくり読みたかつたけど。中々いいよ。アメリカのこと実によくわかつたよ。始めの部分は特にはつきりとよくわかる。アメリカの歴史のところはやつぱりむつかしいね。レギュレターのことなんか出て来るところの辺、もつと説明してほしいね」「やつぱりその辺はさうだらうな。尤も本論でも数回反覆して出てくることは出て来るが、もつとすつきり書けたのに、どうもいかなかつた。書きなほしたくてもどうにもならない。そのくせあそこを書いてゐる時、一ばんはり切つてゐたんだ。あそこに僕の最もオリジナルな部分があるんだから。だけどまだ自分のものになりきつてゐなかつたんだ」「あそこは面白いことは面白いね」「全体として問題は正しく提起されてゐるかどうか」「正しく提起されてゐると思ふ。それにプランテーションが単に経済制度の問題でなく、政治及び社会制度の問題であると云ふことも非常にはつきり出てゐる。アメリカの歴史、政治、経済について、根本的に正しい理解が与へられる。ルーズヴェルトが支持されるべきだと云ふことも非常によくわかる。政治的把握が正しい」。

「僕はプランテーションのことを書きながら、一般に前資本制の遺制が資本主義社会の中でいかなる意味をもち、いかなる作用をなすかを、その経済的基礎から政治、社会的表面へのあらはれまで、内面的な脈絡に於て描き出さうとしたんだ。従つて日本の経済、社会、政治の間接的批判でもあるんだ。それが第一。第二に、台湾のプランテーション及び現在の日本の占領地のプランテーションの問題について、重大な警告を提出してゐるんだ」「さうだ、それは正しい。それらの意味でも、この問題提起は重大だね。とにかく本論を非常に読みたいよ。出るだらうね」「あたしも菊池さんの原稿を読め々々さんく云はれて、読もうと思ひながら、昨日今日の忙しさで実はまだ読んでゐないんですよ」と、之は北条夫人。「いや、本になつてからゆつくり読んで下さい。原稿は汚いし、それにどうもこの部分は悪文で、すら

「読んでいただけるものでないんですよ」「何とか出てほしいね。若し万一発禁になったら、原稿を送ってほしいな」「その手筈にしておかう」「それからむつかしい言葉もあるけど、『貶黜』と云ふ言葉は成功してゐるね。キッコウと云ふ字はむつかしかつたな」「あれは『頓頑』と書く方が正確なんだ。『拮抗』と云ふのが略なんだ」「さうか。それから頽落も新しいね。しかし言葉で妥協してないのは正しいと思ふ。索引はほしかつたね。註も引用出典と本當の註とを、わけられたらよかつたのにね……」。

「実はね、この緒論の部分をこの一月に、立教のアメリカ研究所で発表したんだよ。あそこに上田君も知つてゐるよと云ふ僕等の友人があるんだがね、その男はアメリカの経済史をやつてゐて、殊に独立戦争を今の所専門にしてゐるんだ。だから、あの歴史の部分のレギュレーターの部分ね、僕の一番独創的であることを自負してゐる部分について、何と云ふか大いにききたかつたんだが、彼の感想はね、世界の各地のプランティションと云ふものの一般的概念も、アメリカのプランティションのこともわかつたけれど、アメリカのそれと、蘭印やマライや西インドのそれとどんな風にちがふか、それがわからない、と云ふんだ。がつかりしたね。僕は世界のいろんなプランティションを、科学的なプランティション概念へ統一的に齎し、その最も典型的なものとして、アメリカのプランティションを問題設立したと云ふことに、問題提起者としてのほこりを持ち、多くの人がこの問題提起を受けとつてくれることを期待したのに」「さう云ふ批評をやるのは典型的なんだね」「何しろ書いてないことを探しては、あれがない、これがないと云つて文句をつけ、肝腎の一番重要な問題提起を無視されるんだからね」「本當にどう云ふつもりで、そんな批評を云ふんでせうね。何だかちつとも同志的ぢやないのね。お友達なんでせう」「駄目なんですよ。言葉が通じない」「そんな批評については芥川が云つてるね。ほら、メフィストフェレスが批評学を講義するんだ。それによるとね、先づ何かをほめるんだね。そしてあとへつけ加へるんだ。『しかしそれだけだ』と。『何々を書いてゐるのはよろしい。しかしそれだけだ』」。

「ほんとだ、その通りだ。尤も書いてないことを探して、何が書いてないからいけないと云ふ風な批評は、実は僕もそれをその当人に対してやつたことあるんだ。奴さん『独立戦争の経済的背景』と云ふ論文書いたことあるんだよ。それに対してね、僕はそれが商業資本の型ばかり書いてゐて、独立戦争の主体であつた農民の要求、態様、生活などを全然書いてゐないから、それがいかんて云つたんだよ」「その場合のその批評は、しかし正しいんでせう」「正しいんですよ。だけど元来奴さんとはどうにも意見があはん。奴さんだけぢやない。同じやうなのが一ぱいゐるんだ。経済史観なんだよ」「さうだ。歴史の領域での経済史観が一番悪質の敵だね。芸術にもあるんだ。社会学派と云ふんだ。バルザックの



小説には階級規定がないからいけない、などと云ふタイプなんだ。それが三〇年代の前半の向ふの芸術論争の主流だったんだよ。三七年頃には勢力頡頏してゐたね」「僕は云つてゐるんだよ。歴史学と云ふと、どうもドイツが威張つてゐるが□、そのドイツの歴史学に三流派がある。一つはマル・エンダ。一つはランケ、マイネッケ、ディルタイ等の歴史主義、之は日本では京都のアカデミクの若手だ。もう一つがウエーバー、ゾンバルト式の経済史観、之が東京の半アカデミックなんだ。あとの二つとも第一のものへの反動、第一のものからの退却、第一のもの俗流化、と云ふ風な形で成形したものだ。日本で今この二つがはやるのは充分なつくづくわけだらう。所が一番いけないのは経済史観の方だ。これはいはば味方面<sup>ツラ</sup>してるからね。味方の中の敵だ。僕は将来も彼等に一番不快な論敵をもつだらうと感じてゐるんだ」「さうだ。たしかに彼等が一番悪い論敵になるよ。きつと無視したり共同戦線をはつて叩きに來たり、うんといやなたかひをいどんでくるだらうね」「うん。そして僕は彼等からトロツキストが出て來ると思ふんだ」「さうだ、トロツキストだ。だからいちばんいけないんだ」。

「僕は藤本君にも上田君にも、その他周囲の大部分の人間にそれを感じてゐるんだよ。死んだ三浦君ともずい分そのことで云ひ合つたんだよ。彼が、僕や北山君の歴史学と、石母田、藤間、今井その他の人々の歴史学との差がわからないんだ。どつちも夫々いいて云ふんだ。僕はさうぢやない、本質的にちがふんだと云ふことをわからせるために、石母田、藤間の退屈極まる論文も読んだんだよ。そしてね、彼等の歴史学には人間がゐない、どこにも人間の姿がない、村落共同体なり家族共同体なりはあるが、それが人間の、民衆のありかたとしてはちつとも出てゐないんだ。概念ばかりある。死物ばかりある。それらは物化され、固形され、安つぽくもてあそばされる。所が北山君の歴史は、切れば血の出る人間関係、人間の情熱、人間の生活で構成されてゐる。僕のやつて、及ばず乍らそれを意図してゐる。その差は簡単な小さい差ぢやない。本質的な差だ。世界観にまでさかのぼれる差だ。この差を感得出来ない人々に対しても、僕は実に困難な、促<sup>促</sup>へがたい、腹の立つたたかひ、腹を立ててはいけないたたかひ、コンニャク問答式のたたかひをやらなきやならないんだ」「全くさうだ。三浦君も一つの典型だね。あんな親切ない人はないんだが、僕もどうにも話が通じなかつた」「あたしも三浦さん、いい人だけど憎らしかつたわ。頑固で話がわからなくて。三浦さんが來るとにらみつけたりしたものなんですよ」「そんなわけだからね、僕は今度のものも、本当に理解してもらへる、従つて評価もし、欠陥も指適<sup>指適</sup>し、これからの第二步、第三步へいい示唆をあたへ、ゲキ励をあたへてくれるやうな読み手を、知つてゐる人の中では五人しか期待出来ないんだ」と云つて、前便に書いた名前をあげ、「どうだらう、さうぢやないかしら」「さうだね、

僕もこれはたしかに羽仁さんの線だと思ふ。そして羽仁さんの線がやはり一番正しい線だと思ふ。しかもそのことが本当にわかるのはたしかに、我々の知つてる中ではそれくらいだらうね」「さうだらう。君だつて、君の書いたものを本当に評価してもらへると思ふ相手は数人だらう。昔のクラ原か岩上氏か」「さうだね、岩上氏一人だね。中野、中条、窪鶴氏になるとちよつと落ちるね。窪鶴氏はだん／＼よくない。それからいろんな固有名詞をあげて一人一人について僕の感じてゐる疑念を云ひ、彼からも云つて、殆ど全く一致しました。

それから今度は、結婚と恋愛の問題にとび、それについてのいろんな人々の理論的水準を評価し、そんな風に果てしもなく話してゐると、いつの間にか十時半になつてゐたのです。

「それぢや菊池さんはやはり信州の方へ行つておしまひになるんですの」「ええ、アメリカ史を書かなきゃなりませんしね。僕は北山君がみんなから離れた気持がわかる気がするんだ」「うん、僕にもわかるね。そいで今度は何書く?」「独立戦争と南北戦争だね。材料を集めては信州へ送つてあるんだ。アメリカでだつてロシアでだつて、まだ本当のアメリカ史は書いてゐないんだ。だから僕が書かなきゃならないんだ。さうだらう」「さうだ、それは大切なことだ。君のを讀んで、歴史と云ふものを感じた。西海のは駄目だ。ロシアでも多分本当のものは出来てないだらうと思ふ。ところで明日書く原稿とは何だね」「ダイヤモンドなんだ。情報局ではね、アメリカ人の残虐性を書いてくれと云ふんださうだ。だから僕もね、それは書かう。だがアメリカ人の固有の特性と云ふものぢやないんだ。残虐性と云ふものは現実的な根拠がある。その根拠は実は遅れた制度であり、帝国主義とその遅れた制度との野合、癒着にあるのだと云ふことを書かうと思ふ」「それは正しい。さう書かないといけないんだね」「おなかすいたでせう、おいもばかりで。今日はごた／＼してゐて、ごはんも何もたけなかつたんですよ」「いや、食べすぎたくらいです。すつかり長居しました」「ぢや本が出たら頼むよ。万一の時は原稿をね」「うん。さよなら」。

帰ると十一時過ぎになり、小使さんを起きねばならなかつた。いものガスをがまんしてゐたので腹具合が変です。ガスと云へば、東京ではガスの超過のため、一ヶ月閉銚（カサ）のうき目を見つあるもの三割と云はれ、木炭は配給ないし、ガスはなしで、大分問題は深刻です。その点僕は好運です。石炭がつかへるので。

十一月二十三日（木）晴

今朝は寐坊をしました。昨夜残つたごはんをサトイモ、カブラのみそ雑炊にして食べ、昼はキヌカツギにふかして、い

もだけですませ、夕食はいねちゃんが出来たけれど、ごはんを炊くのが面仆なので、やはりおいもですませました。尤もいねちゃんの帰りがけに生ザケの配給あつたので、油やきにしました。いねちゃんにはマーガリン、バターをもちつたので、さといもをあげました。彼女の衣類と食糧とをここへ保存しておいてあげることにします。いねちゃん分ぐらいの米は、僕の方で充分準備出来るし。月夜なので、送つて行かなかつた。

十九日、廿日付のお手紙拝受。

あなたは無理に毎日書かなくていいですよ。書ける時に書きなさい。僕のは、こちらで書いたものを置いておけないから、日記と覚え書きとの意味もあつて書くのですから。

「マナサス」の感想はやはりあなたの認識力の進歩をあらはしてゐます。シンクレアのものには、洞察の不充分がいつでもあり、機械的なんです。だが歴史を知らないとその点が批判出来ない。北条君でもいつかマナサスをほめてゐたが。第八節についての感想も非常に満足です。イアリングは僕も読んでゐない。さう云ふものを想ひ出してければ、僕の論理的な叙述もよくわかつてもらへると思ひます。また、問題のつかみかたもたしかになつた。プーアホワイトと云ふのは、決してアメリカ南部に特有のものでない。ローマのルンペン・プロレタリアと共に一個の世界史的範疇です。そのことを理解してくれたことも嬉しい。要するに僕の「プランテーション」は、一つの個別を具体的に書きつつ、それを普遍的な問題として、世界史的な意義に於て、しかも我々の日常生活にもいたるところにつながつてゐる問題として展開されたところに、意義がある筈なんです。それを評価してくれる人が、それを徹底的にわかつてもらへる人が、さきにあげた五人とあなたとしかない（今の所）と云ふのです。

ではダイヤモンドの原稿にかかりませう。

今日は之だけ。

いねちゃんもブルーズとズキンとをほめてゐましたよ。

森井さんと臼田君とについての御意見も正しいと思ふ。だけど、僕はまだ森井さんにうんと話をする機会を期待してゐる。僕は凡ゆる人に自分の人間関係論を説得する努力をやつてみたいのです。そして自分をきたへたいのです。本当に理解してくれる人も必要だし、中々わかつてくれなくてケンカしなくちゃならん相手も必要だし、頼りなくてわかつてゐるのかわかつてゐないのかわからないやうな相手もまた必要です。竹中君のやうな。臼田君も大分僕の意見に反応を示すやうになりました。彼女は殆ど白紙である点、以前の竹中君と似てゐるが、どうやら竹中君よりは理解力も上の

やうです。

では。

十一月二十四日（金）晴

小包拝受。大変有難う。なほ今日の夜、あらためて書くことにして、之は之だけで投函します。

### 幸子から謙一あて（一九四四年一月二三日の記、二四日の消印）

十一月廿三日

朝十時頃から咽喉が腫れて寒気、とうとう風邪を引きました。（たうとう）炬燵で勉強しようと思つても、睡眠不足の時と同様に目玉が痛くて涙が出るし、困りました。一日中何も出来ず、さりとてねる程の事もなく、ウロウロとすごしました。

今日は調査会は休みだった筈ね。あなたはどんな一日を送つたでせう。東京もお天気はよかつたでせうね。今日は、昨日も一昨日も手紙が来なかつたから、来る筈だと思つてゐたのに、とうとう夕方までまつても来ませんので、何かあなたの身に変つた事でもあつたのではないかと不安になりました。今日はどうやつて一日すごしたか思ひ出せません。

毎日あまりにも単調な生活です。あなたや桃ちやんと天竜峡へ行つて以来、門から出たのはゴカキに一度と郵便局に小包を出しに二度、それ丈です。ポストは毎度早苗ちやんが投函してくれますから。来る人もきまつてゐるし、する話もきまつてゐるし。

私の精神生活はプランテイション一てん張りで、他のものはほとんどよみませんし、きつと手紙は面白くないでせうね。同じ事ばかりで。変つた内容を書き度くても書く事があるませんの。プランテイションの感想にしても、毎々同じ調子ばかりで、あきくする事です。でも私自身は一寸もアキくしないで、其の中に今の処すつぽりと沈みこんでゐます。自分で考へて、あいまいなところがありますので、おきくしたいと思ひます。

### 第二章第七節の二の終りの方

「あり余る豊饒の中の貧窮、そしてかかる恐慌時の倒錯的な生産増加現象には、不断の最低限的な不安定な窮乏生活から今や恐慌の破壊力に直接の餓餓線に追ひつめられたクロッパー及白人零細農の絶望的な生産努力が反映されてゐたのであり-----」

この赤○のところ意味がよくわかりませんけれど。クロッパやブーアホワイトは恐慌の重圧が加はれば加はる程、生産するより他の生き方がないからでせうか。いくら安くても、売るのがある方が、ないよりましだからでせうか。値上りまで生産制限する、もちこたへるべき財産を持つてゐないからでせうか。

昨夜はねる前にマナサスを終りまで読んでからねむりました。毎日、□人、チェインギヤング、□、鎖、の中で暮してゐるので、ゆうべはとう／＼自分が黒人奴隷で、否応なしに重い／＼鉄板を背中に乗せられて、歩き度くても歩けず、後から□は飛んで来るし、手とひざで立たうとしても立てず、あんまり重くて、脇腹のあたりから重圧に絶えかねた内臓がはみ出して来る夢を見ました。あまり苦しくて悲鳴をあげて目をさましたら、便所へゆき度く／＼こらへきれない様な状態になつてゐて、其の苦しさだつた事がわかりました。今までならさう云ふ時は、誰でも便所が塞つてゐたり、汚れてゐたり、戸がなかつたりで困る夢を見るのに、重さの苦しみに内臓がはみ出す奴隷になつたなんてのは、初めてでした。

オペラハットやスミス氏都へゆくは、ろく／＼覚えてゐませんけれど、アメリカの農村問題、特に土地なき農民を対象としてユートピア的に解決しようとする、と云ふか個人的に解決しようと思ふ様なものではなかつたでせうか。あの映画が作られた頃、ローズベルトのメッセーヂやニューデイル政策で、国民の前に南部の農業問題が持ち出されてゐた時だつたのですか。あれを見るころはアメリカの事なんて何も知らなかつたんですから、ざんねんだつたと思ひます。スミス氏都へゆくは、とに角、農民の間にある流通面の人々の悪をスミス氏が議会の問題としてあばき出すのだつたでせうか。覚えてゐるのは、あの悪戦苦闘の議会のスミス氏の長演説のところだけです。

十一月廿三日夜

幸子

### 幸子から謙一あて（一九四四年一月二四日の消印）

十一月廿五日

昨夕から短い時間を怒りのぶどうを読み始めました。ジョード家の母親の中にアメリカの自由農民の持つてゐた自立心、誇、友情、積極性をみられる事はうれしい限りですが、彼女の息子や娘になると、それ等のものはもうこはされて、代

つてなりゆきまかせや捨鉢、セツナ主義が表はれて来ます。彼等一家は四〇エーカーの土地を持つた自作農だったのですね。前読んだ時は南部の状態も、農民の種類も性質も、ニューディール政策も知らなかつたので、前後のつながりが解らず、あの本の持つ意義もわかりませんでした。今度はある程度掴む事が出来るでせう。

今朝あなたの二つの手紙が一語につきました。十九日附と廿一日附のと。随分長い時間がかかるのですね。19日附のはまる／＼一週間の時間を要してゐる。あなたの皆との対話はちつとも退屈ではありません。大変面白く、私も其の場にゐあわせた様な感じで読んで居ります。どうぞ今後もそのまゝ続けて下さい。結局、それはあなたとの結びつきを尚更強めるものであり、あなたの精神生活を私も同時に生活する事になります。さうして私が此の前洩した一種の不満、「生活感情が異つて来る」事をおそれる―おそれをなくす事であり、私の求めてゐたものを与へる事になります。

あなたが竹中さんや臼田さんとの結婚問答の中で、アンネットにふれてゐるので、たま／＼思い出して書く訳ですが、第一巻で、アンネットがロジエ(?)を夫として一語に今後の生活を共にする事は出来ない、と云ふ確信の下に彼に結婚を拒否し乍ら、すぐ其の後でロジエに身をまかせる氣になつたのか、他の人ならいざ知らず、アンネットの様な理論づけのない生活を嫌ふものが、唯のレンビン丈であんな事をする氣になるのが不思議でなりません。其の後の何とか云ふ外科医との恋愛は、まったく同感出来るのに、いくら好きなアンネットとは云へ、あれは承服出来ないアと思ひます。

ダイヤモンドの原稿、廿四日までに来ましたか。

防寒頭布は氣に入つてくれてよかつたですが、尚その上実用的であつたらと思ひます。

竹中さんが今の起つてゐる結婚問題に自分の立場をコシツするのは、当の相手をもう知つてゐて、好きになりかかつてゐるのぢやないかしらと思ひます。ばく然と相手もなしに、そんな事を云つてゐられるものぢやないから。

臼田さんの方の話もさうありさうな事です。本当に皆、恋愛とか結婚とか、ばくぜんと考へてゐても、今それに集中せざるを得ない立場に立つと、今まで考へてゐた事が、皆何も役に立たないものばかりだつた事に氣がつき、あはてたり、本当のところはどうだかわからなくなつて来る事があると思はれる。今まで、それなりにすんだ事も、もう許せない事のように思へて来たりするんですね。その事がもう前と立場をかへて、真ぢめに、その事を考へ出した第一歩のあらはれです。あはてて他の観念を当てはめて割り切つたり、むりに理論を押しつけ様とするといけないんだわ。要するにあせつたり氣短に投げ出したり、いそいで□理しようとしてはいけないのです。嫌になつたと云はないで、何度も／＼



二人で話し合ふ事によつて、段々はつきりして来るのぢやないかしら。其の時二人が誠実なら、偏見をコシツしたり意地を張つたりしないで、相手の云ふ事を段々理解しあふでせう。話をきいてゐると、まだ二人とも充分の話し合が不足なんだと云ふ事がわかりますね。今後もつとうんとく話し合つたり云ひ合つたりする事が、白田さんの今までを理解させる事でせうし、彼の云ひ分の出どころも判明する。問題はそれからでせうね。今のところ二人ともお互を充分知り合つてゐないから、問題は最も主要な点にまでふれてゐない状態だと云つてもまちがひぢやないでせう。ある程度まで知り合つてゐたとしても、二人に結婚が必然なものである、程度の理解まで到達してゐなかつたから、結婚と云ふ、はつきりした立場に立つと、始めから改めてやりなをさなくちやいけなくなつて来てゐるんでせう。

竹中さんとの相違も、白田さんにははつきりした対象がある丈に、考へ方も真けんにならざるを得ないので。竹中さんの場合ははつきりした対象（と云ふのは自分から求めた対象の意味）なしに、其の事について考へるんだから、実際は問題以前なんですもの。実体なしに、こんなだらう、とか云つたつて、理屈にならないのはあたり前の事です。

今日も又ちぐはぐな手紙になりました。自分でまん足する様な手紙つて書けないのですね。家では猫たちが死んで、ねずみの害が目立つて来ました。ストックのおいもも、さうめんも、一豆も大変かぢられました。では今日はこれでさようなら。

幸子

### 謙一から幸子あて（一九四四年一月二四日の記）

十一月二十四日（金）晴

今日の空襲に、こちらは全然被害も何もありませんでした。

敵機編隊は大部分、この真上を西から東へと通りましたが、従つて敵機来襲の半鐘は何度となく鳴りましたが、すべて六、七千米の高度で、防空壕へも一度もは入らず、露台で眺めたり、防空壕の築山であふむけに寐そべつて、雲の美しい秋空をながめただけでした。

空襲は十二時頃から三時まで三時間にわたり、高射砲もずい分射たれましたが、この辺ではその破片の被害もありません。味方の飛行機もずい分沢山出て、凡ゆる段階の高さを始終縦横にとびかひましたが、向ふが高すぎて、空中戦にもならなかつたやうです。敵機は白い煙をきれいにひいて、実に千変万化する美しい雲の空を悠々と行つたり来たりしま

したが、とにかくこの辺は、頭の上を通るだけで殆ど危険感もありませんでした。この程度の空襲では、僕の方は多分御心配には及びません。いねちゃんの方は心配ですが、日本橋から、あの辺で全然被害も何もなかったさうですから、銀座なら大丈夫でせう。

尤も僕達も決して全然身仕度しなかつたのでありません。チャンとゲートルに鉄カブトをつけて、防空壕へもベンチを入れて、は入れるやうにしました。壕の中の水は三寸ぐらいなので、ベンチを入れると大丈夫なんです。食糧もその他のものもちやんと用意だけはしたのです。心配してゐるといけないから、今これだけ書いて出します。

### 幸子から謙一あて（一九四四年一月二四日の記、二五日の消印）

十一月廿四日夜

七時のニュースで東京空襲を知り心配して居ります。電話をかけて見様かと思ひましたが、きつとこむでゐることです。うと思ひ、やめました。七十機だつた相ですから、相当の被害あつた事です。経堂方面は如何でした。早速お知らせ下さい。又今夜あたりも来るのではないかの感じが致します。多分無事であるでせうが、一そちらから通信あるまでは心配の極みです。稲ちやんはどうだつたでせうね。あなたは私の云つた通り非常持出の用意しておいたかしら。あなたの事だからあとでくで、そのまゝなんでせう。あまり心配かけない様にして下さい。こんな時、自分一人疎解して私のような者や一部疎解の者たちはどんなに心をいためるでせう。疎解児童たちはどうでせう。急速な正確な発表をきく事が出来ないだけに、よけい心配がまします。今、心せくまゝ書いてゐても、そちらに着くのは廿七日か廿八日、あるひはもつとおそくなるかも知れませぬね。それを思ふと、何と云はれても一時も早く、あなたにも疎解して貰へばよかつたと思はれます。

丁度其の時、私一人、二階でノオトをとつてゐました。下からふうちやんが呼ぶので、暫くして行つたらコウくと云はれ、ドキンとしました。心の中では、あなたは大丈夫と何故だか嫌にはつきり確信もつて思へるけれど一でも事実を知らなくては、本当の安心は出来ませんから。ではとりいそぎ。

## 謙一から幸子あて（一九四四年一月二五日の記）

十一月二十五日（土）曇

昨夜は、空襲についての僕の無事だったことの報告をあなたへ書いてあと、あの日（廿四日）<sup>メ</sup>切だったダイヤモンド日報の原稿の書きなほしでつぶれて了ひました。原稿はたつた四百字六枚だが、数回書きなほして、やつと今朝出来上らうとした所へ、松沢氏からサイソクの電話があつたので、さて昼食をすませて、出かけようとしたら、また警戒警報が出たのです。昨日もそつくりかう云ふ形だったので、また／＼足どめになりました。だがそれを機会に、もう一度原稿の後半を書きなほしました。幸ひ今日は、午後になつて間もなく警報もとけたので、三時にダイヤモンドへ原稿を届けることが出来ました。

題名は、註文がアメリカ人の残酷性と黒人問題についてと云ふので、「アメリカ人の野蛮残酷と黒人奴隷制度」としました。先づアメリカの野蛮残酷は、単にマーチャント・オブ・デス（「死の商人」）すなはち武器製造業者、軍需工業家としての金融資本のそれだけなのではなく、もつと歴史的な且つ現実的な社会制度に根拠をもつものであるとのべ、その歴史的根拠とは奴隷制度であり、現実的根拠とは現在の南部の奴隷制遺制であると指適<sup>適</sup>。次には黒人奴隷制度の発生と歴史的性質、その非人道性。殊に奴隷暴動とそれの弾圧のための中世的残酷。次にかかる制度の遺制としての残存が、南部を依然中世的にしてゐること。その中世的社会の現実をあらはすものとして三つの実例、スコッツボロ事件、ハーンドン事件、ハーンドンの中に出て来る少年死刑囚の話。之等の制度が、アメリカ的野蛮の根ざしてゐる根拠なのであると結ぶ。

まる二日かけたが、どうも余りいい出来ではない。例によつて六枚の中へ余り盛りこも<sup>ま</sup>うとしたのと、前に書いたこととの重複をさけるのに無理があつたこと。そのために残酷性なるものが、近代的ならざる社会制度と結びついてゐると云ふことをはつきりうきぼり出来なかつた。出来たら送りませう。

ところで昨廿四日は朝からすてきに天気がよくて、秋らしい高い青空に、白絹かまわたのやうな美しい巻雲、巻層雲が刻一刻変化しつゝ懸つてゐました。高層気流の動きがさかんらしく、本当に雲の形の変化はすばらしくて、何度も見惚れました。やがてそこへB 29の編隊があらはれるのだとも知らずに。白田君は此の朝、高崎で病んでゐた判事をしてゐ

る長兄がとう／＼死んだと云ふ電報が来たから、休ませてくれと云つて帰りました。僕も不満ながら一通り原稿が出来たので、届けに出ようと思つてゐるとサイレンだつたのです。ラジオで「伊豆方面に八機編隊の敵機あらはれ、北上中」と報じられてまもなく、空襲警報です。既にケイカイエイホウと同時に、国民学校の生徒のやうに古田、坂巻両嬢を家へ帰しましたから、男八人だけで、ゲートルと鉄カブトに身をかため、まだ二、三寸水のみたまつた防空壕へベンチを三つ入れ、僕は食糧、金、その他の非常袋を用意しました。

味方の飛行機は今日は大分景気よく、何台も(十数台かそれ以上)東に西に、高く低く、哨戒か待機か、とびかつてゐましたが、ラジオで「敵機編隊、帝都西方上空に近接」と云つてゐる最中、まるで逃げるやうに、何台も何台も味方飛行機があはただしく、西から東へとび去りました。「どうしたんだらう。西方へ来たと云ふのに、東へとんで行くよ」「油がきれさうだから基地へかへつたかな」などと云つてゐる中に、敵機来襲を呼称する声と半鐘とがきこへ、遠いけれど厚みのある爆音がどこかにはれましました。「どこだらう／＼」とみんな露台で空を見まはし、谷川君と八木君、松村君の三人だけは、高射砲の音が之も割合遠くだがしはじめたので、防空壕へは入りました。「あれだ／＼、高いなあ」誰かの声に、その指す方を見ると、巻雲と同じくらしいの高度、ほほ八千米か七千米の高さで、経堂の北寄りの空を西から北東へ進む八機編隊の大型機がみつかりました。いづれも細い美しい白煙の尾を引いて、周囲に高射砲弾の炸裂するらしい黒い煙のたまをいくつも伴ひつつ、それらを残して悠々ととんで行き、味方飛行機ははるかに下の方を、またみつけれぬのか、まるで無関心のやうにとびまわつてゐるだけでした。この編隊は三鷹の中島飛行機を襲つたらしく、間もなくとすん／＼と云ふ地ひびきのやうな音がいくつもきこえたのは、爆弾を落してゐたのでせう。すべて実に正確に無駄なく落したさうです。この間の偵察機がすっかり写真をとつて行つたのですから、よくわかつてゐたのでせう。間もなく再び「カン／＼／＼／＼」と半鐘がなつて、「テッキライシユウ、タイヒ」と叫んで歩くのがきこえました。ラジオは、第一編隊は帝都上空を東北方へ飛翔中、第二編隊帝都西方上空に近接、第三編隊伊豆方面北上中と報じて、だん／＼不気味になつてゐた所だつたので、用心しながら西空をさがすと、美しいいわし雲のたなびくのを背景に、やはり分高く、南西から南東へ白い煙の尾をひき、高射砲の弾の煙を兎の糞のやうに残しながら悠々ととんで行きました。之は京浜の上空をとんでゐたのでせう。その間味方飛行機は、新司偵のつくりかへと称する双発戦斗機をはじめ、スマートなのやズングリや、さま／＼のが右に左にとびまわりましたが、大部分低い所を哨戒的にとぶだけで、敵機の高さにとんでゐるのは余りみつきりませんでした。第三編隊は、この真上をまつすぐ東へとびすぎました。それから編